

埼玉ブロック学生企画委員会 3SP 活動報告

本学生企画委員会は、以下の事柄を趣旨として 2010 年度より新たに立ち上げた埼玉県内の大学生を主体とした小委員会組織である。本委員会は、3SP (Saitama Students Science & technology Project) と称する。

- (1) 学生委員の発案企画により、埼玉ブロックの技術交流促進・社会貢献を図る
- (2) 埼玉ブロック内の学生の交流を図る
- (3) 参加した学生委員の企画・実行力やコミュニケーション能力の育成
- (4) 本活動を埼玉ブロック独自の活動として、今後の発展可能性が大いにある

今年度は 3 回の企画会議を経て、小学生向けのものづくりイベント「エアプレーンコンテスト」を開催する運びとなった。本企画は、エアプレーン（プロペラ飛行機）の製作を通じて「ものづくり」や「考えること」などの大切さを体験してもらうために企画された。製作後の競技・審査で高得点が取れるよう、参加者に様々な創意工夫をしてもらい、「ものづくり」と「考えること」の楽しさを学習してもらうのが狙いである。イベントの周知は、ビラおよびポスターを作成し、3SP ホームページ上 (URL : http://www.sit.ac.jp/user/alan_hase/3SPtop.html) およびイベント掲示板、Twitter、郵送によるダイレクトメールを利用した。また、イベント前日の準備として、材料・工具や参加者名札の準備、エアプレーンの見本製作や各競技レイアウトの準備、採点用紙の作成、賞状の作成、イベントの段取り検討などを行った。

以下に本イベントの実施結果を報告する。

日 時 2012 年 1 月 21 日 (土) 9:30~15:00
場 所 埼玉工業大学 30 号館 3011 教室 (定員 50 名)
題 名 エアプレーンコンテスト—Air Plane Contest—

◆エアプレーンコンテスト概要

主催者側 (学生・顧問) は 9 時 00 分大学に集合し、9 時 30 分に開会を宣言した。最初に主催側の挨拶として、本イベントの趣旨とイベントスケジュールについて説明した。つぎに、学生がスライドを用いて飛行機の仕組みや各部位の名称の説明を行い、エアプレーンの作り方を説明した。特に、製作時のポイントである重心の釣り合いや翼の角度、翼の長さについて分かりやすく説明した。その後、学生達がサポートしながら参加者にエアプレーンを製作してもらった。

昼食後、製作したエアプレーンを実際に飛ばしてもらい競技を実施した。競技は、飛行距離、滞空時間、デザインの 3 種目を実施した。競技の結果を採点集計し、総合 1 位~3 位の入賞者と各競技部門の部門賞受賞者を決定した。最後に各競技の成績発表および表彰を行い、3SP 顧問による閉会の挨拶をして 15 時にイベントを閉会した。

◆参加者数

小学生 : 18 名 (参加費無料)、保護者 : 5 名の合計 23 名



写真1：エアプレーン製作風景



写真2：エアプレーン製作風景



写真3：エアプレーン競技風景



写真4：エアプレーン競技風景



写真5：閉会式表彰風景



写真6：デザイン部門賞受賞作品

◆反省点と所感

今回は小学校低学年の参加者が多く、題材が少し難しいことが懸念されており、競技になるかどうか心配されたが、子供達が最初の製作時のポイント等の説明をよく理解し、定規やはさみを上手く使って“飛ぶ”エアプレーンを製作することができていた。3SPメンバーも子供達と一緒にエアプレーンを製作して飛ばしていたが、先入観なく感性で作った子供達の方が遠くへ飛ぶエアプレーンを作っていたのには驚かされた。前回の課題であった募集方法を改善し、参加者数を増やすことができたが、定員に達しなかったため、今後も募集方法や会場の検討が必要といえる。このような大学や学年を越えた学生主体のイベント企画・実行によって、イベント参加者だけでなく企画した3SPメンバーの学生自身も大いに成長できる有意義な活動となっている。

〔報告書作成 長谷 亜蘭〕

◆2011 年度 3SP メンバー

委員長	埼玉工業大学修士 1 年	中野 晃太
副委員長	埼玉大学修士 1 年	関根 大輔
	埼玉工業大学 4 年	大澤 輝
	埼玉工業大学 4 年	亀山 一成
	埼玉大学 4 年	岡田 大樹
書 記	埼玉工業大学 3 年	鈴木 敏文
	埼玉工業大学 3 年	清水 和樹
	埼玉工業大学 3 年	下方 昇大
	ものづくり大学 1 年	山下 裕輝
顧 問	ものづくり大学 1 年	小林 千紘
	埼玉工業大学 講師	長谷 亜蘭